

中小企業景況情報

平成22年 7月～9月期実績
平成22年10月～12月期予想

富山県商工会連合会

中小企業景況状況 平成22年7月～9月期

富山県下商工会地区における中小企業の景気動向を定期的に把握し、業界に対する情報の提供並びに商工会が行う経営改善普及事業の基礎資料に資するため、四半期毎に定点観測調査を実施した。

〔調査基準〕

1. 調査方法 商工会の経営指導員による訪問調査
2. 調査時点 平成22年9月1日
3. 調査対象期間 平成22年7～9月期実績および平成22年10～12月期予想
4. 回答企業内訳および回答率

業種	対象企業数	回答企業数	回答率(%)	地区名
製造業	32	31	96.8	朝日町・入善町
建設業	26	25	96.1	宇奈月町・上市町
小売業	37	37	100.0	富山市南・富山市北
サービス業	55	54	98.1	高岡市・小矢部市
合計	150	147	98.0	南砺市・庄川町

(注) 1. 本調査でのD・Iとはディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（上昇、好転）企業割合と減少（低下、悪化）企業割合の差を示すものである。

産業全体

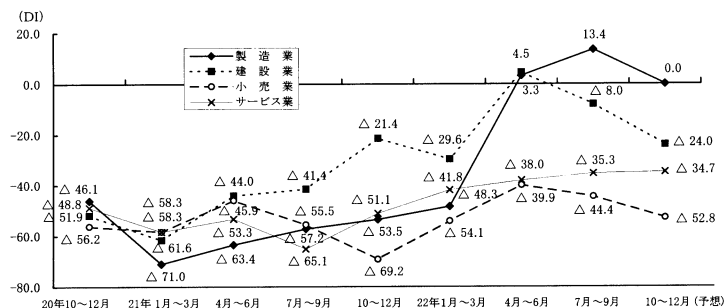
- ・業況判断(DI)は、前回調査比(6月)2.4ポイント上昇し△22.5となった。
- ・来期は7.9ポイント減少の△30.4を予想している。
- ・売上額は前回調査比13.9ポイント上昇し△11.7となった。また、来期は△35.2と悪化を予想している。
- ・採算は前回調査比0.9ポイント上昇し△31.5となった。また、来期は△36.1と悪化を予想している。
- ・資金繰りは前回調査比4.3ポイント上昇し△17.3となった。また、来期は△20.8と悪化を予想している。

1. 業況判断D・Iの推移（前年同期比）

〔前期比、全ての業種で好転した〕

今期は、前期より製造業 13.4（+10.1 ポイント）、建設業△8.0（-12.5 ポイント）、小売業△44.4（-4.5 ポイント）、サービス業△35.3（+2.7 ポイント）と好転した。

来期は、製造業 0.0（-13.4 ポイント）、建設業△24.0（-16.0 ポイント）、小売業△52.8（-8.4 ポイント）で悪化、サービス業△34.7（+0.6 ポイント）で好転を予想している。

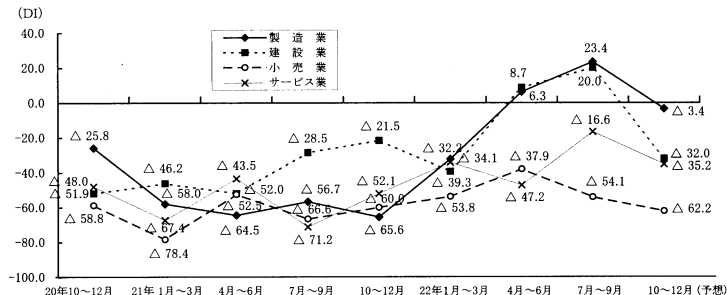


2. 売上額D・Iの推移（前年同期比）

〔前期比、製造業・建設業・サービス業は好転、小売業は悪化した〕

今期は、前期より製造業 23.4（+17.1 ポイント）、建設業 20.0（+11.3 ポイント）、サービス業△16.6（+30.6 ポイント）は好転、小売業△54.1（-16.2 ポイント）は悪化した。

来期は、製造業△3.4（-26.8 ポイント）、建設業△32.0（-52.0 ポイント）、小売業△62.2（-8.1 ポイント）、サービス業△35.2（-18.6 ポイント）と全ての業種で悪化を予想している。

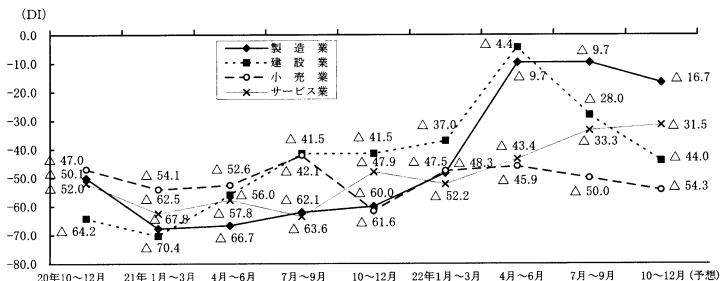


3. 採算D・Iの推移（前年同期比）

〔前期比、サービス業は好転、製造業は横這い、建設・小売業が悪化した〕

今期は、前期よりサービス業△33.3（+10.1ポイント）は好転し、製造業△9.7（増減なし）が横這い、建設業△28.0（-23.6ポイント）、小売業△50.0（-4.1ポイント）と悪化した。

来期は、サービス業△31.5（+1.8ポイント）は好転、製造業△16.7（-7.0ポイント）、建設業△44.0（-16.0ポイント）、小売業△54.3（-4.3ポイント）と悪化を予想している。

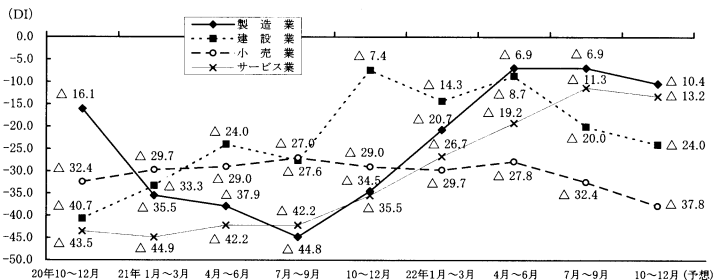


4. 資金繰りD・Iの推移（前年同期比）

〔前期比、サービス業は好転、製造業は横這い、建設・小売業で悪化した〕

今期は、前期よりサービス業△11.3（+7.9ポイント）は好転、製造業△6.9（増減なし）は横這い、建設業△20.0（-11.3ポイント）、小売業△32.4（-4.6ポイント）は悪化した。

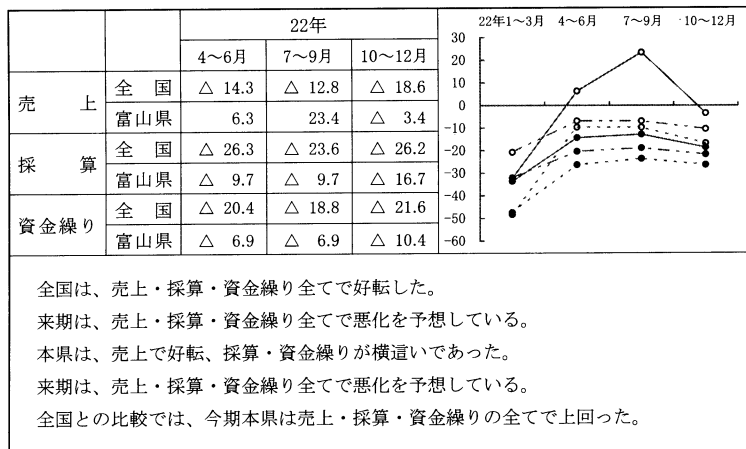
来期は、製造業△10.4（-3.5ポイント）、建設業△24.0（-4.0ポイント）、小売業△37.8（-5.4ポイント）、サービス業△13.2（-1.9ポイント）と全ての業種で悪化を予想している。



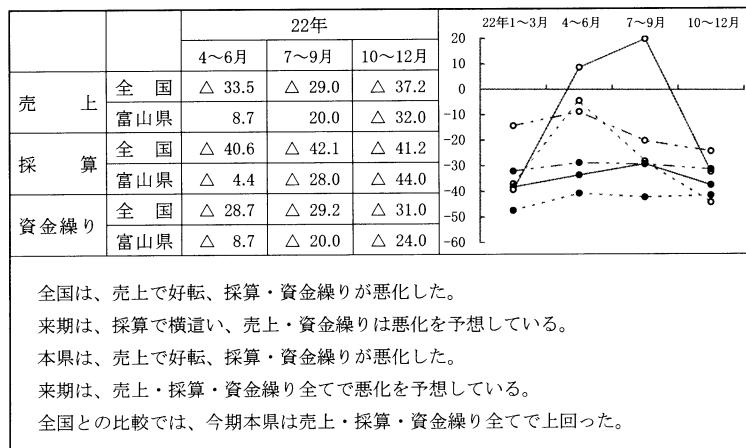
D I 値による全国動向との対比

全国 ● 売上 採算 資金繰り
 富山県 ○ 売上 採算 資金繰り

製 造 業 (前年同期比D・I)

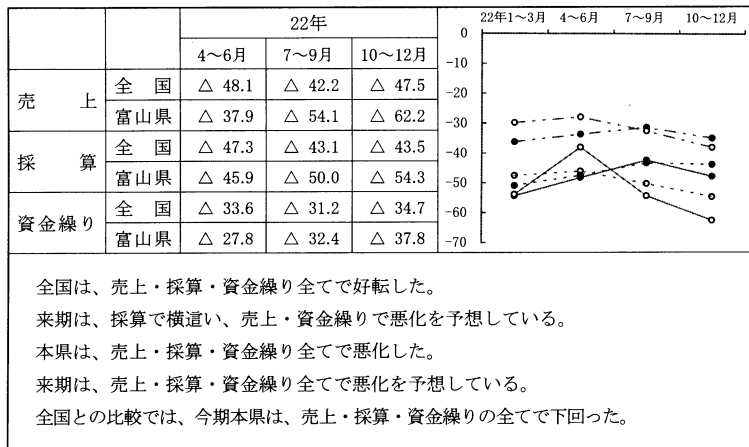


建 設 業 (前年同期比D・I)

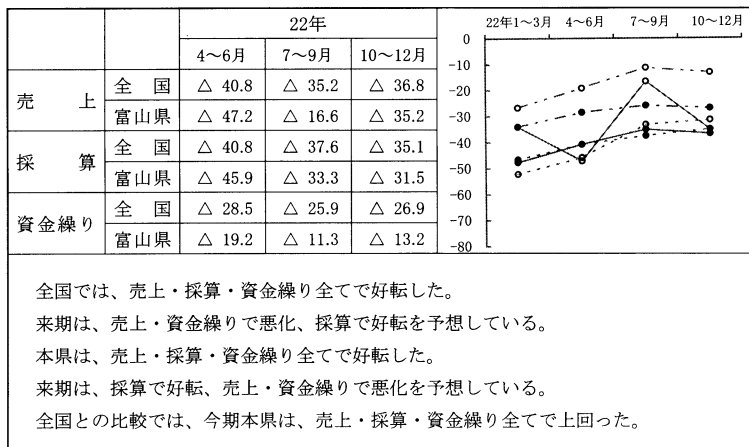


全国	●	○	●	○	●	○	●	○
富山県	○	●	○	●	○	●	○	●

小 売 業 (前年同期比D・I)



サ ー ビ ス 業 (前年同期比D・I)



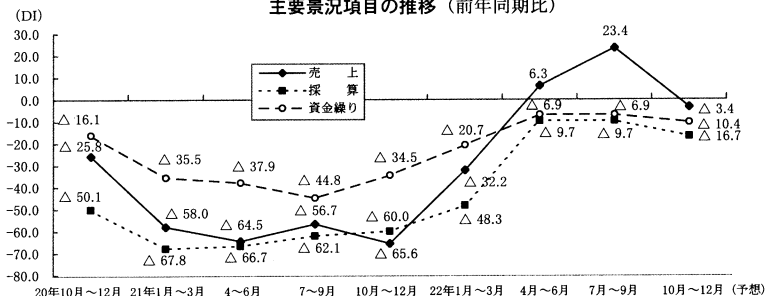
製 造 業

1. 主要景況項目の動向

業況DIは前回調査比10.1ポイント上昇し13.4となり、売上は17.1ポイント上昇し、採算、資金繰りは横這いであった。

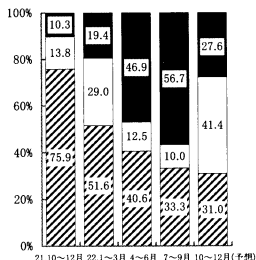
来期は、売上・採算で好転、資金繰りで悪化を予想している。

主要景況項目の推移（前年同期比）

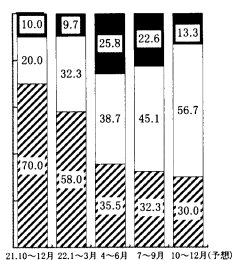


■ 上昇・好転 □ 不変 ▨ 低下・悪化

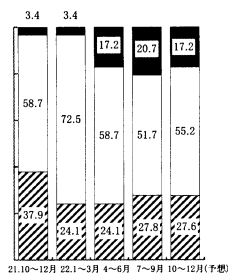
売上額の状況



採算の状況

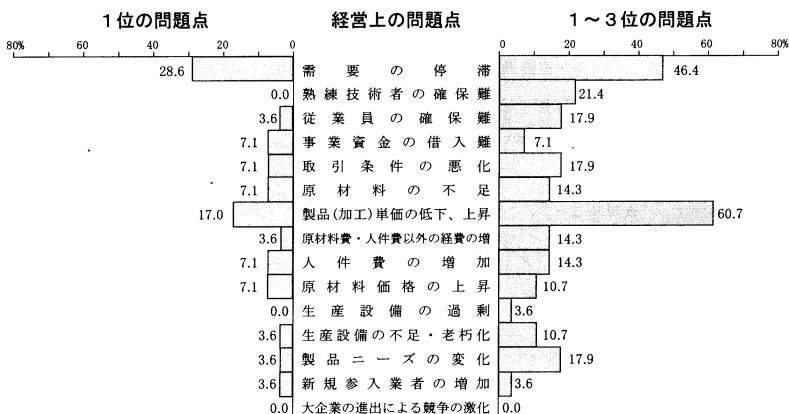


資金繰りの状況



2. 経営上の問題点

問題点の上位は、①「需要の停滞」(28.6%)②「製品(加工)単価の低下・上昇難」(17.0%)
 ②「原材料価格の上昇」(7.1%)。これを1位～3位までの合計でみると、①「製品(加工)
 単価の低下、上昇難」(60.7%)②「需要の停滞」(46.4%)③「熟練技術者の確保」(21.4%)
 の順となった。

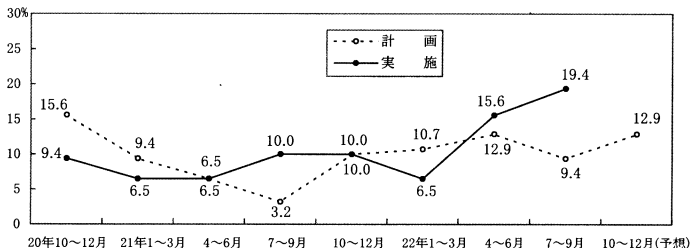


3. 設備投資の状況

今期設備投資を実施した企業は、前期比3.8ポイント上昇し19.4%となった。投資内容は生産設備、車両運搬具となっている。

来期計画は、3.5ポイント上昇し12.9%となっている。投資内容は生産設備、車両運搬具となっている。

設備投資計画及び実施状況

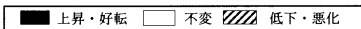
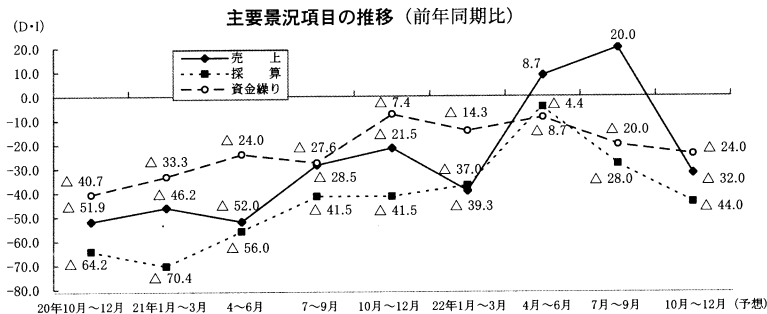


建設業

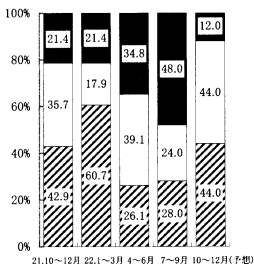
1. 主要景況項目の動向

業況DIは前回調査比12.5ポイント減少し△8.0、売上は11.3ポイント上昇し、採算は23.6ポイント、資金繰りは11.3ポイント減少した。

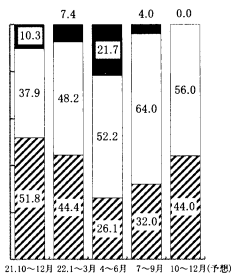
来期は、売上・採算・資金繰りの全てで悪化を予想している。



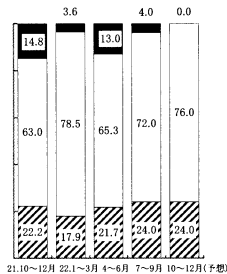
売上額の状況



採算の状況

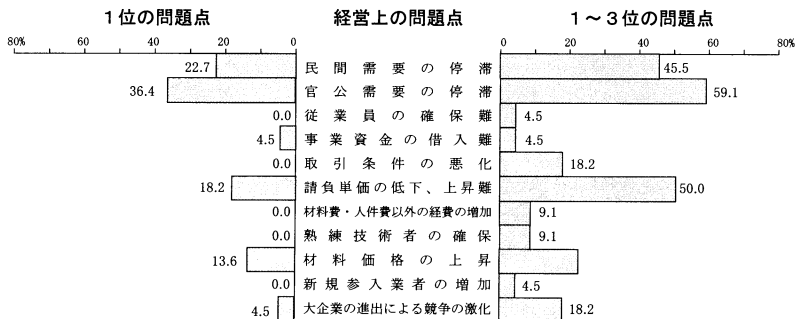


資金繰りの状況



2. 経営上の問題点

問題点の上位は、①「官公需要の停滞」(36.4%) ②「民間需要の停滞」(22.7%) ③「請負単価の低下、上昇難」(18.2%)となった。これを1位～3位までの合計で見ると、①「官公需要の停滞」(59.1%) ②「請負単価の低下・上昇難」(50.0%) ③「民間需要の停滞」(45.5%)の順となった。「請負単価の低下、上昇難」「官公需要の停滞」「民間需要の停滞」が上位に定着してきている。

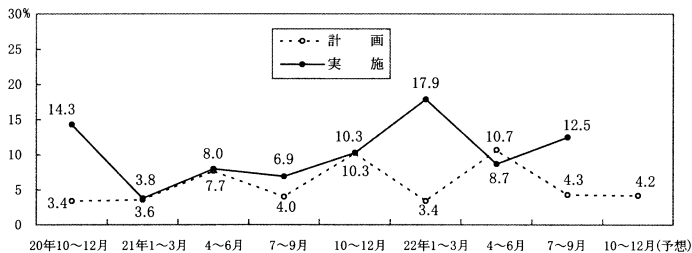


3. 設備投資の状況

今期設備投資を実施した企業は、前期比3.8ポイント上昇し12.5%となった。投資内容は建設機械、車両運搬具となっている。

来期計画は、0.1ポイント減少し4.2%となっている。投資内容は車両・運搬具となっている。

設備投資計画及び実施状況

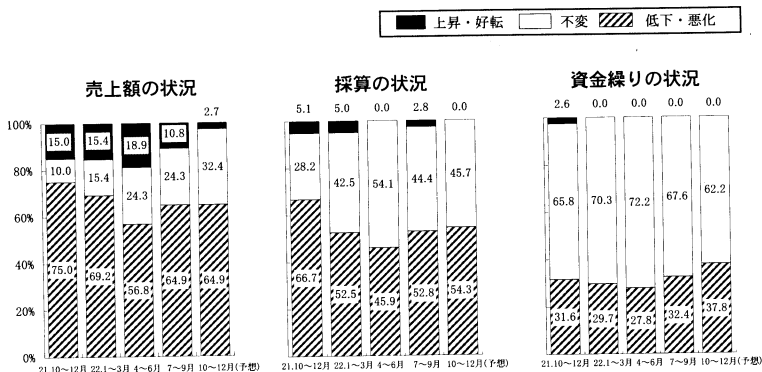
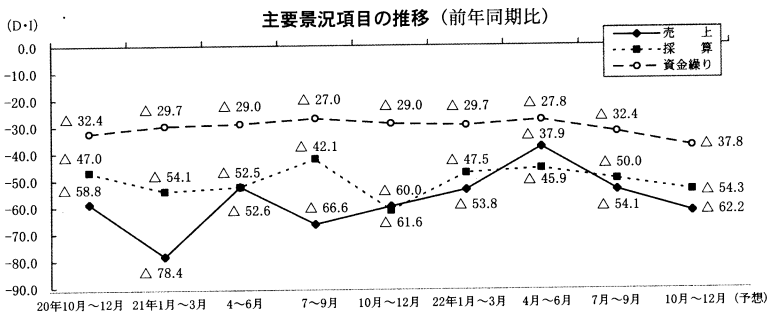


小 売 業

1. 主要景況項目の動向

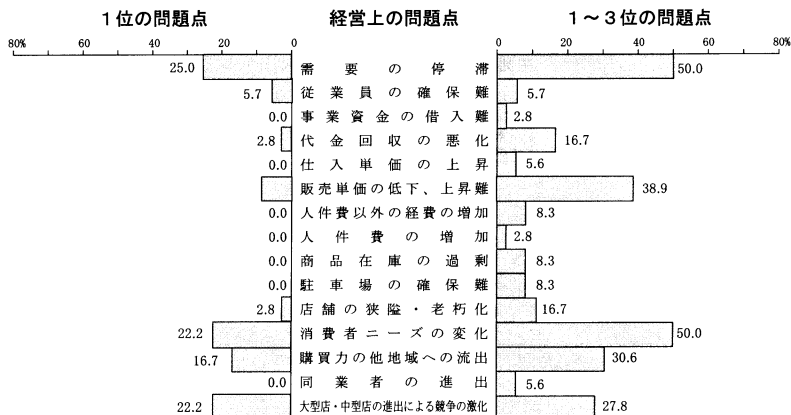
業況D I は前回調査比 4.5 ポイント減少し△44.4、売上は 16.2 ポイント、採算は 4.1 ポイント、資金繰りは 4.6 ポイント減少した。

来期は、売上・採算・資金繰りの全てで悪化を予想している。



2. 経営上の問題点

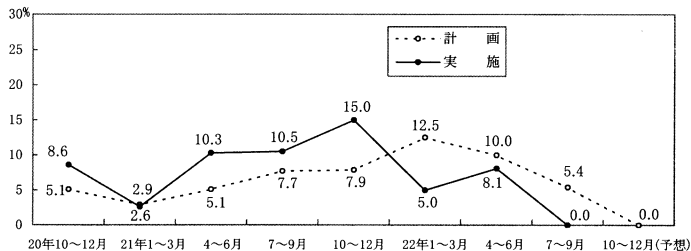
問題点の上位は、①「需要の停滞」(25.0%) ②「大型・中型店進出による競争の激化」「消費者ニーズの変化」(22.2%)となった。これを1位～3位までの合計で見ると、①「需要の停滞」「消費者ニーズの変化」(50.0%)、③「販売単価の低下、上昇難」(36.9%)の順となった。「需要の停滞」は上位に定着してきている。



3. 設備投資の状況

今期設備投資を実施した企業は、前期比8.1ポイント減少し0.0%となった。来期計画は、5.4ポイント減少し0.0%となっている。

設備投資計画及び実施状況

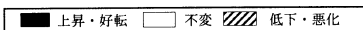
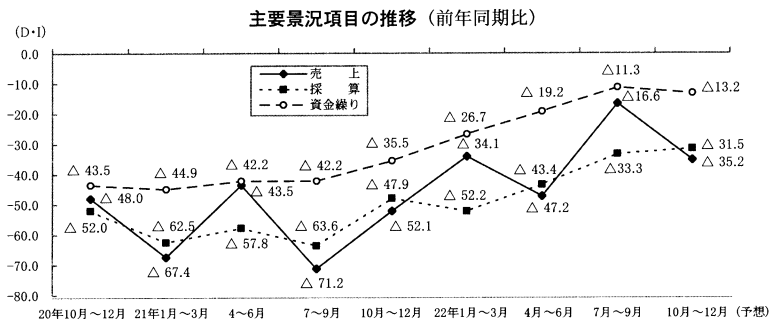


サービス業

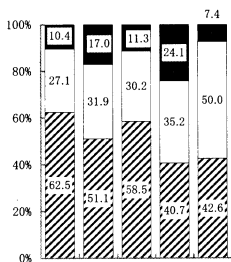
1. 主要景況項目の動向

業況DIは前回調査比2.7ポイント上昇し△35.3、売上は30.6ポイント、採算は10.1ポイント、資金繰りは7.9ポイント上昇した。

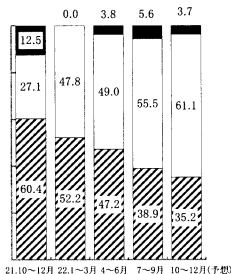
来期は、採算で好転、売上・資金繰りは悪化を予想している。



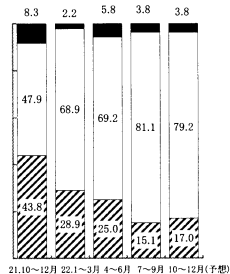
売上額の状況



採算の状況

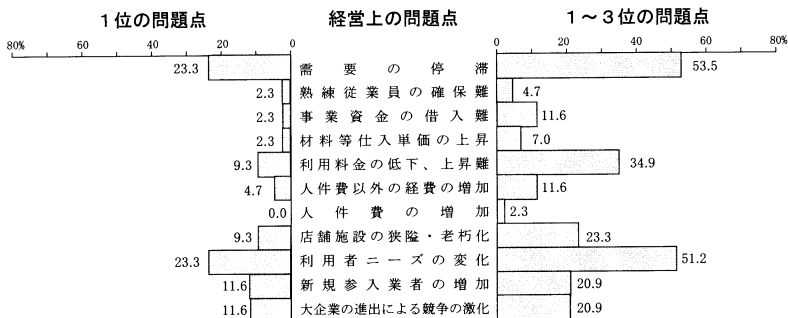


資金繰りの状況



2. 経営上の問題点

問題点の上位は、①「需要の停滞」「利用者ニーズの変化」(23.3%) ③「新規参入者の増加」(11.6%)となった。これを1位～3位までの合計で見ると、①「需要の停滞」(53.5%) ②「利用者ニーズの変化」(51.2%) ③「利用料金の低下、上昇難」(34.9%)の順となった。「需要の停滞」「利用者ニーズの変化」が每期上位に定着してきている。



3. 設備投資の状況

今期設備投資を実施した企業は、6.0ポイント減少し11.1%となった。設備内容は、車両・運搬具、建物となっている。

来期計画は、7.5ポイント減少し1.9%となっている。投資内容は、付帯設備、OA機器となっている。

設備投資計画及び実施状況

